

令和5年度 学校評価の結果による課題と改善策

別紙「令和5年度 学校評価の結果と状況分析」を踏まえ、学校として次年度に向けた課題と改善策について以下のように検討した。

課題1	<p>○楽しく登校できる学校</p> <p>「学校が楽しい」これは、教育における原点である。さまざまな理由で行き渋りや不登校になるが、もう一度、原点に立ち返り、「楽しく、満足感や期待感をもって学ぶことができる魅力ある学校」について考える機会にしたい。</p>
改善策	<p>①日頃から、児童生徒との信頼関係を築きながら、じっくり話をし、問題を未然に防ぐ予防的に対応。</p> <p>②児童生徒が興味関心をもって意欲的に取り組み、満足感や期待感を得ながら学ぶことができるような授業づくりの工夫。</p> <p>③教材・教具を工夫し、「わかった・できた」が感じられるような授業。</p> <p>④友人や教師との温かい人間関係づくりの構築。</p> <p>⑤保護者との十分な話し合い、協力体制づくり。</p>
課題2	<p>○読書活動で言葉の力が育っている児童生徒</p> <p>保護者、ばんだい荘職員から読書活動をしているのか、児童生徒が本に親しんでいるかどうか分からないという意見が多く、教員からも目に見えた読書活動が見えない、図書室の活用という点での課題が挙がった。</p>
改善策	<p>①教科横断的な視点での言語活動の充実。話し合い活動や調べ学習等を通して、自分の思いや考えを伝えたり、友達の思いや考えを知ったりする活動の設定。</p> <p>②コミュニケーション能力の育成、仲間と共に学び合い、共に育ち合う協働的な学び。</p> <p>③各学部における図書室や移動図書館の活用、読書活動の時間の確保。</p> <p>④国語科の年間指導計画における「読む活動」の充実。</p>
課題3	<p>○地域への啓発、地域の方々の理解</p> <p>新型コロナウイルス感染症の5類感染症以降、校外での教育活動が再開され、今年度は各学部ともに地域に出掛けての教育活動が活発に行われた。しかし、地域の人的・物的資源の活用、地域への啓発・周知、情報の発信の仕方、地域の方々の理解という点では、まだまだ課題が見られる。地域に開かれた教育課程の実現のためには、地域との連携は必須である。</p>
改善策	<p>①「地域を学びのフィールド」とし、地域に出掛けて学んだり、地域の方に来て頂いての授業を行ったりする取組（外部講師、ゲストティーチャーの招聘、出前授業等の実施。地域でのボランティア活動、職業製品の販売活動）。</p> <p>②地域学校推進委員を通して、町役場と連携。</p> <p>③発信方法の工夫（新聞社への取材依頼、猪苗代町広報誌への掲載依頼、回覧板等）。</p>